

○3 番（宮原隆昌君）

3 番、宮原です。

この席からの発言は初めてですので、よろしく願いいたします。

まず、最初の質問ですが、平成 16 年 8 月 30 日、当時、私は役場の建設課に勤務しておりましたが、台風 16 号が通り過ぎ、土庄町内は強風による被害もほとんどなく安心しておりました。ところが、夜 10 時半頃に、海面上昇による高潮が発生いたしまして、土庄港沿岸に行くと海水が川のように国道のほうに流れ込んでいたのを鮮明に覚えております。この高潮により、土庄町の海岸付近の住宅は多数、床上浸水し、大変な被害が発生いたしました。

また、最近では今後 30 年以内に 70 から 80%で発生すると言われていた南海トラフ巨大地震による津波も心配されるところでございます。

そこで、このような災害が心配される中で、土庄港横の腰掛川には、水門やポンプ場がないために、海水が逆流し、大木戸、吉ヶ浦、港新町地区は床上浸水の心配が続いております。想定される腰掛川の氾濫につきまして、地域は以前から要望しております、ポンプ場等の今後の整備計画について、町の説明をお願いいたします。

○議長（濱野良一君）

建設課長 濱口浩司君。

○建設課長（濱口浩司君）

宮原議員のご質問にお答えいたします。

平成 16 年の高潮災害では、町内で甚大な被害が発生いたしました。腰掛川周辺においても浸水被害が発生し、被災後、一部護岸の嵩上げおよび逆流防止弁の設置を行っております。

しかしながら、南海トラフ地震による津波や既往最高潮位等から防護するためには、大木戸自治会館ぐらいまでの護岸の嵩上げが必要となります。また、河口付近で水門により防護する場合には、内水排除施設、いわゆるポンプ場の建設が併せて必要となります。計画洪水流量から計画ポンプ規格のほうを検討しますと、φ1000 mmの水中ポンプ 3 台、φ700 mmの水中ポンプ 1 台が必要になると見込んでおります。

町内の浸水対策といたしましては、現在、大谷地区において都市下水路事業で内水排除のためのポンプ場および管路布設工事を行っているところであり、これらの事業の進捗状況や優先度等を踏まえながら、計画的に浸水対策事業を進めてまいりたいと考えております。よろしく願いいたします。

○議長（濱野良一君）

宮原隆昌君。

○3 番（宮原隆昌君）

ありがとうございました。

誰もが安全で安心して暮らせるまちづくりは町長の施政方針です。機会がありましたら、町長にも現場を見ていただけたらと思います。そして、1日も早く実現できますよう、よろしく願いいたします。

それでは、2番目の質問です。

昭和53年に建設された土庄港港務所、これは高松行きの切符売り場ですが、これは耐震性に問題がありまして、老朽化と手狭により、待合所としての機能を果たせていません。とくに、トイレにつきましては、今年の瀬戸芸の来島者が「もっと綺麗なトイレはありませんか」と、案内ボランティアに訴えたというお話もお聞きしております。

また、2階のからかい上手の高木さんの土庄ベースも急な階段を上がる必要があります。小高い場所にあるライオンズクラブの身障者トイレも使いづらい状態です。公共施設の使用については、身障者等への配慮も必要です。さらに、土庄港ターミナルビルは、観光案内所も閉鎖され、何の施設かわからない状態です。土庄港の機能を全体的に見直し、観光客や島民が利用しやすい港にしたらどうでしょうか。

また、「太陽の贈り物」横の石の広場を開放し、夕暮れコンサートやみなとまつり等のイベントで、土庄港を小豆島の表玄関として、にぎわいを取り戻してはどうでしょうか。よろしく願いします。

○議長（濱野良一君）

建設課長 濱口浩司君。

○建設課長（濱口浩司君）

宮原議員のご質問にお答えいたします。

土庄港港務所は、以前、岡山行き高速艇及び神戸・大阪行き旅客船の航路の廃止、また、高松行きフェリー岸壁の耐震化により高松行き高速艇発着場の移設によりまして、その利用形態は時代により変化してきました。最近では、トイレの洋式化およびコインロッカーの配置替えを行いまして、利便性の向上を図ったところでございます。

また、ターミナルビルは、切符売り場の移設により空きスペースが増え、テナントの配置替えも行いましたが、依然として閑散としております。昨年は、社会実験として三味線の演奏会を行っていただきました。今年度は、ターミナルビルで町民の文化作品展を計画しております。さらには、「太陽の贈り物」広場の東側のUNIT広場の貸し出しを計画しておりまして、町民の方にご利用いただき、にぎわい創出につなげてまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

商工観光課長 蓮池幹生君。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

建設課長からの答弁に加え、宮原議員のご質問にお答えいたします。

土庄港でのにぎわいづくりにつきましては、商工観光課としましても、土庄港港務所2階に、アニメ「からかい上手の高木さん」を活用したとのでしょうか BASEを整備しまして、多くのファンが訪れる情報発信の場となっております。また、土庄港周辺には、土庄港のシンボルにもなっています、チェジョンファ氏の「太陽の贈り物」をはじめ、4つの瀬戸内国際芸術祭作品が設置されており、いわゆる「映えスポット」としても多くの方々を訪れております。

さらには、トヨタカローラ香川との SDGs に関する連携協定を踏まえ、この6月から、土庄港観光センターにおいて、観光客の足となる EV バイクのレンタルを始めたところであり、環境にやさしい、新たなまちなか周遊観光の足として、利用が拡大することを期待しているところです。

なお、最近では、自由度が高く機動的なキッチンカーも土庄港周辺で活動しており、にぎわいづくりに一役買っているところでもあります。

土庄港はイベントスペースも限られており、フェリー乗降車両との兼ね合いや駐車場等の問題もありますが、「太陽の贈り物」が設置されているステージの有効活用なども含め、アニメやアートなど特色ある資源を生かしつつ、小豆島観光の起点として、まち全体のにぎわいづくりにつなげてまいりたいと考えております。よろしく申し上げます。

○議長（濱野良一君）

宮原隆昌君。

○3番（宮原隆昌君）

ありがとうございます。

ただ、今後本格的に整備されると思われる、他町の港のにぎわいに負けないためには、土庄港だけでなく、迷路のまちやエンジェルロードなどを一体的に考える必要があると思っておりますが、その点いかがでしょうか。

○議長（濱野良一君）

濱口課長。

○建設課長（濱口浩司君）

宮原議員の再質問にお答えいたします。

現在、建設課で策定しております土庄町立地適正化計画の中に、町中ウォーカブル推進事業というメニューがあります。

この事業は、車中心から人中心の空間への転換を図り、まちなかの歩いて移動できる範囲において、道路、公園、広場等の整備や修復、利活用、滞在環境の向上に資する取り組みを重点的、一体的に支援し、居心地が良く、歩きたくなるまちづくりを推進する事業であることから、小豆島の表玄関である土庄港からエ

ンジェルロードまでの区間を指定することにより、にぎわいの創出を図っていないか検討しているところでございます。

○議長（濱野良一君）

宮原隆昌君。

○3番（宮原隆昌君）

ありがとうございました。大いに期待したいと思います。

それでは、3番目の質問です。

現在、戸形小学校跡地は、町がサウンディング型市場調査を実施しており、先日の総務建設常任委員会において数社の提案があったことが報告されました。

しかしながら、現在この場所は、戸形地区の公民館文化活動や、体育館の夜間利用、そしてグラウンドゴルフとしての利用は戸形地区だけではなく、前島の老人会も多数参加しております。

何よりも、戸形の鯉のぼりや夕日のスポット、八日目の蟬などの映画ロケ地としての小豆島を代表する観光地として、たくさんの観光客が訪れています。

町民の不安や行政不信につながらないためにも、町がサウンディング調査を踏まえて、どのような土地利用を目指しているのか、次の点について説明をお願いします。

1つは、今回のサウンディング調査の実施について地域からの要望はありましたか。

2点目が、今回の調査を踏まえて、提案のあった施設ができる可能性はあるのでしょうか。以上、よろしく願いいたします。

○議長（濱野良一君）

総務課長 笹山恵子君。

○総務課長（笹山恵子君）

宮原議員のご質問にお答えいたします。

サウンディング型市場調査とは、「町有地等の有効活用に向けた検討に当たって、その活用方法について、民間事業者から広く意見や提案を求め、事業者との対話を通じて市場性等を把握する調査」のことです。

そこで、1点目の今回の調査実施について地域からの要望はあったかというご質問でございますが、行政として実施したものでございまして、事前に地域からの要望があったものではございません。

旧戸形小学校跡地に係るサウンディング型市場調査につきましては、昨年9月に地元の3自治会長に調査についてご説明し、地元のご了解をいただいた上で、11月30日に開催された総務建設常任委員会でご説明するなどした後、今年2月に現地説明会を、3月に事業者との面談を行い、提案を受けたところでございます。

調査の結果といたしましては、先の閉会中の委員会でご説明申し上げましたとおり、4事業者から具体的な提案がございました。

地元に対しましては、去る5月22日に、3自治会の自治会長をはじめ役員の方々に集まっていたいただき、調査結果の報告をいたしました。席上、役員の方からは、宮原議員ご指摘のとおり、公民館活動や体育館の利用、グランドゴルフでの使用、さらには鯉のぼりの掲揚などがどうなるのか、多くのご意見をいただきました。中には、「町は、民間に売ることだけを考えているのではないか」とのお叱りの言葉もございました。

改めて申し上げておきたいのは、サウンディング型市場調査は、あくまでも「民間事業者が魅力とを感じるような市場性があるのか、民間事業者ならどのような利活用を考えるのか」を調査することを目的に、自由な発想に基づく提案を受けるものでございます。したがって、調査の結果を踏まえ、どのような方向性に向けて検討していくかは、町が独断で考えていくのではなく、まずは地元の皆さまが、どうお考えになるかだと思っております。このため、来月早々には、3つの自治会それぞれに、改めて調査の結果をご報告する場を設けることとしております。

2点目の今回の調査を踏まえて提案のあった施設ができる可能性はあるかというご質問に対しましては、繰り返しになりますが、あくまでも、地元の皆さまがどうお考えになるかということが大前提であると考えております。

町といたしましては、地元の皆さまの不安や行政不信につながらないように、地元をはじめ施設利用者とのご相談を第一に、皆さまのご意見をお伺いしながら、旧戸形小学校跡地の今後の利活用について検討してまいりたいと考えております。

○議長（濱野良一君）

宮原隆昌君。

○3番（宮原隆昌君）

ありがとうございました。

過去、私も町執行部の一員として、地区住民と対話や協議によりまして、大部、北浦、大鐸小学校跡地の整備や、豊島の小中学校の統合建設をやらせていただきました。跡地利用は、地区住民との信頼関係なくしては進めることはできません。

県下では東かがわ市の白鳥温泉が3月に閉館し、現在、再開や活用方法についてサウンディング調査を実施しておりますが、あくまでもここは閉館した施設です。毎日利用されている戸形小学校跡地で、このやり方はたいへん無理があるように思います。町民には、十分な説明と情報公開を再度お願いいたします。

それでは、最後の質問です。

岡野町長が就任して1年半になろうとしております。前町長からの課題や、

財政的にも厳しい状況は理解できますが、このあたりで、岡野町長独自のカラーを出してもらいたいという町民の声をよく聞きます。

そこで、改めて岡野町長が目指すまちづくりのビジョンについて説明をお願いいたします。

○議長（濱野良一君）

岡野町長。

○町長（岡野能之君）

宮原議員のご質問にお答えいたします。

私が町長に就任し、昨年1月から、1年5カ月が経過いたしました。町政運営には、町議会議員各位をはじめ、多くの方々にたいへんお世話になっており、改めてお礼申し上げます。

さて、この1年5カ月の間、まずはコロナ禍への対応が急務であり、感染防止対策や町民への生活支援、事業者への緊急支援に全力を挙げて取り組んでまいりました。同時に、官製談合事件への反省を踏まえ、入札制度と役場組織の改正も行いました。

コロナ禍やロシアによるウクライナ侵略といった、予期せぬ世界的変動による経済停滞や物価高の影響を受け、観光客数の減少、消費支出の落ち込みによる産業の衰退などにより、わが土庄町は、宿泊施設や事業所数が減少するなど、たいへん厳しい状況にあります。率直に申し上げて、ここ数年、まちの元気が少しずつ落ちてきているように感じています。

人口減少は、依然として全国的に進んでおり、残念ながら出生率は過去最低を記録し、なかなか上向きません。

こうした中、私は今年度の施政方針として、5つの柱を掲げました。

第1は「産業振興とにぎわいのあるまちづくり」、第2は「福祉・医療が充実したまちづくり」、第3は「安全・安心のまちづくり」、第4は「豊かな心と体を育むまちづくり」、そして第5が「持続可能なまちづくり」であります。

土庄町にとって喫緊の課題は、人口減少を少しでもくい止めることです。しかしながら、人口減少をくい止めるのは容易なことではないため、人口減少をくい止めると同時に、人口減少に対応したまちづくりを行っていくことが重要であると考えております。

私のなすべきこと、私のまちづくりビジョンを一言で申し上げると、「人口減少をくい止めるとともに、人口減少を見据えたまちづくりを進める」ことであります。私は、このことをまちづくりの重要課題として、力を尽くしていく所存であります。その際、将来の町の担い手世代に、負担を持ち越さず、豊かな町民生活を続けられるかたちを作り、託せるかたちとしていくことが、われわれ世代の大きな責任であると考えております。

そして、目指すべき「まちの将来像」につきましては、大詰めを迎えている第7次総合計画の中で、アンケート調査や住民ワークショップ、さらには小・中学生や高校生に夢や希望を語ってもらうなどしながら、さまざまな世代の声を伺ってまいりました。その結果、多くの方々が、地域のつながりや島の自然に愛着と誇りを持ち、離島というハンデを感じつつも、ふるさと土庄町を何とかしたい、住み続けたいと思っていられっやることが分かりました。

こうした町民の方々の思いを踏まえ、私といたしましては、「まちの将来像」を「人と自然が輝く みんなで創るアイランドタウン とのしょう」としたいと考えております。

「まちの将来像」を定める総合計画につきましては、現在パブリックコメントを実施しており、7月に開催予定の審議会を経た上で、9月議会定例会に議案として提出させていただきたいと思っております。

最後に、どんなに立派なビジョンであろうとも、行政だけで行えることには限りがあります。むしろ住民の皆さまのご理解、ご協力がなければ、何事もなせるものではございません。

私といたしましては、人口減少や施設の維持、産業の衰退など、大きな課題に正面から向き合い、将来にわたって、心も生活も豊かに暮らせる「にぎわいあふれるまちづくり」を町民の皆さまと「共に考え、共に創って」まいりたいと思っております。

今後も粘り強く着実に、町政を進めてまいりたいと考えておりますので、どうかご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（濱野良一君）

宮原隆昌君。

○3番（宮原隆昌君）

ありがとうございました。

最後に、私から岡野町長には若さで、土庄町民が隣町に負けないように誇りと希望を持てるまちづくりをお願いし、質問を終わります。ありがとうございました。